

Think Globally Act Locally (Vol.13)

ボランティアのすすめ

今回は、Vol.11 で募集した渋谷幼稚園運動会ボランティアと、白寿荘バザーボランティアについて、体験談が寄せられましたので紹介します。

渋谷幼稚園運動会でのボランティア報告

私は今回初めて幼稚園のボランティアに参加しました。私は弟や妹もないし、五歳くらいの子たちと触れあうという機会が全くなく、初めはどうしたらいいのかわからないこともありました。けれど幼稚園の子たちから「お姉さん、お姉さん」と近づいてきてくれ、運動会も終わりに近づくとつれてすごく寂しくなりました。今回このボランティアに参加して、小さい子はかわいいなあ……というだけではなく、彼らをまとめていくことを通しリーダーシップをとることの大切さと大変さを学びました。

(高二 女子)

私は10月27日の渋谷幼稚園運動会にボランティアとして参加しました。私のやった園児係はお水を飲みたいという子や、トイレに行きたいという子連れて行くという仕事でした。あとは、お遊戯のお花を腕につけたり、出番を待っている子供たちと話したりしました。子供たちは皆元気で、先生たちは大変そうでした。でも皆とてもかわいくて、楽しかったです。これからも、いろいろなボランティアに参加したいと思います。

(高二 女子)

昨年クラスメートがこのボランティアに参加して「楽しい」と言っていたので参加しました。絶対に優しく接しようと思っていました。運動会の手伝いというからきつく大変だと思っていたけれど、実は楽しかったです。そして幼稚園生との交流もできたのでとても充実した日でした。

(中二 女子)

小さい子供たちと遊ぶのが好きで、先生や親の立場になってみたかったので参加しました。できるだけ園児と触れあって、楽しい運動会にしてあげたいと心がけました。日本に来てから初めてのボランティアだったので、楽しみにしていました。実際にやってみるとなかなかいいことを聞かなかったりして大変でしたが、励ましてあげたりして楽しい運動会になったと思います。自分もあの年頃の時は大変だったんだなあと感じました。次回も子供に関係するボランティアをやってみたいです。

(中一 女子)

小さい子も好きだし、場所も近かったので参加しました。できるだけ優しく丁寧に話そうということを心がけました。まだ小さくて自分の言いたいことも言えずにいる子の世話をするのは大変だと思いました。初めてだったので分からないこともたくさんありましたが、次回に生かしていきたいと思います。

(中一 女子)

白寿荘バザーでのお手伝いボランティア報告

今回は服売り場のお手伝いをしました。品物の量が多くて、売り場もいくつかに分かれていて、その中の服売り場だけで一部屋使っていて、すごかったです。今回は売り場のお手伝いだけでしたが、他のボランティアの人とお話できて楽しかったです。 (高一 女子)

私は四月からボランティア部に入部し、たくさんのボランティアを体験しました。白寿荘へは二度行きましたが、いずれも私の心に残る体験でした。特に二回目のボランティアで手伝ったバザーは貴重な体験となりました。一回目のボランティアでは部屋の掃除でほとんど施設の人達とは触れあうことができませんでした。でも二回目のボランティアでは食堂のウェイトレスをしたので施設の人達と触れあう機会が多かったです。

特に心に残ったことは食べ終わった後、空の容器の片づけを手伝ったときに「ありがとう」と言ってもらったことです。ボランティアは本当に良いことだと思いました。お互い、気持ちよく接することができるし、いろいろな体験もできるからです。これからも積極的にいろいろなボランティアに参加したいと改めて思いました。 (中一 女子)

p.s. 元気ですボランティア部。

ここでは、ボランティア部の部員が日々の活動の内容を報告しています。

今回の活動は、白寿荘(老人ホーム)のバザーの手伝い、ベルマークや切手の収集、フィリピンからの手紙の日本語訳です。白寿荘のバザーの手伝いで、衣類や本などの販売をしました。確か、初めての貴重な体験ができました。フィリピンからの手紙の翻訳は最近始めた活動で、部員みんなで取り組んでいます。英語はやはり、訳るのは大変で、時間はかかりますが、とてもやりがいのある活動だと思っています。ベルマーク、切手、テレカの収集もつい最近始めました。図書室や職員室前などにあるので、是非入れていって下さい。パスポート、イオカードも可。

ボランティアは意外と気軽にできて、色々な種類があるので、中々面白いですよ。ホントに。自分で楽しそうなのを見つけてみるのも1つの手印のではありません。興味があればあったら、夏目先生か成田良知子先生、または私達を尋ねてみて下さい。意外と面白いですよ、ホントに。以上、ボランティア部からでした。

1-A 塚田
1-C 木岡生

夏休み中広島で開かれた核兵器に反対する世界大会に参加した生徒が、感想を書いてくれましたので以下にそれを掲載します。

「平和への思い」

私は今回広島へ行って、大事なことを学んだと思います。関西地方、広島へは一度も足を踏み入れたことはありませんでした。

広島について初日は、被爆者の山岡ミチ子さんとの懇談と、灯ろう作りでした。山岡さんにはとても良いお話をたくさん聞かせていただきました。原爆が落ちたとき、山岡さんはまだ私より一つ上の中学三年生でした。

当時、中学生になると、「勉強なんか一日一時間でいいんだ！働け！」と言われていたそうです。

私には勉強する学校ではなく働きに行く学校なんか想像もつきません。毎日、学校へ通い、勉強することはもう当たり前の世の中です。たった57年前の話です。

原爆が落ちたのは、8月6日の午前8時15分。その時間は、出勤時刻です。山岡さんもちょうど電子工場へ向かう途中でした。爆心地から約800メートル離れたところです。その日は、晴れていて、暑い暑い日だったそうです。原爆は晴れている日にしか活動できないことを知り、「なるほど」と思いました。原爆が落とされたことによって、広島県民の生活は一転しました。肉親を失った人、体にひどい火傷、あざ、傷ができた人、即死した人さまざまです。

山岡さんもその一人です。山岡さんは左耳の鼓膜が破れてしまい、足も不自由に、そして全身の大やけどを負いました。今は、火傷、足は治療して良くなりましたが、左耳が聞こえないこと、そして心の傷は一生消えないものとなってしまいました。

私が山岡さんの話を聞いていて、一番心に残った言葉は、

「皆さん忘れないください。戦争というものは二度とやってはならないことです。原爆の恐ろしさはまだ十分世界の人々に知られていません。それを、知らせていくのがあなた達の役目なのです。」

原爆の恐ろしさがわかっている今でも、まだ原爆は作られ続けています。今、作られている原爆が使われれば、世界は滅びるだろうと言われていています。それなのに、なぜそこまでして原爆を作るのが私には、理解できません。環境保護が騒がれている今、原爆をなくすことが一番大事なことはないのかと思います。それができないわけは、まだ多くの人が原爆というものの恐ろしさをわかっていないからだと思います。

分かっているならば、絶対に「あんなものを作るのはもうやめよう！」と誰もが思うはずです。

だから、私は世界中の人々全員が広島を訪れるべきだと思います。

山岡さんの話を聞き、翌日、資料館を訪れた後に私は改めて強く思いました。特に、資料館で見た悲惨な写真・物・ビデオ・像の数々にはショックを受けました。

資料館を見学しているときに、私は、小学校4年生ぐらいの頃に見た「はだしのゲン」というアニメを思い出しました。私が初めて原爆というものについて深く考えさせられたのは、あのアニメでし

た。今でも助けを求めて走り回る人々の顔の表情や苦しそうに血を吐く人の姿が昨日のことかのように、頭の中で、浮かび上がります。そういう人々の姿を私は記念館でアニメとしてではなく、実際の写真・映像・像として見てきたのです。やはり、一番怖いと感じたのは写真と本物の人間かのように造られた像でした。

像を見た瞬間に私はこれがまさに山岡さんが言っていた「地獄」のことだと思いました。像の表情のリアルさ、それは今にも「助けて～!!!」と叫んできそうな勢いでした。目玉は本来あるべき位置になく、飛び出ていました。そして、皮膚はびろーんとゴムのように垂れ下がり、腕は一本もなく、とても人間とは思えない状態でした。像でさえ恐ろしいのに、本物の人間がああ状態で何人もいたと思うと、とてもではないけれど想像し切れません。資料館で見たその他の写真も言葉では表せないほど、すごいものでした。

いまだに、その放射能や火傷のせいで苦しんでいる被爆者はたくさんいます。

今回の広島派遣を通して、私は改めて原爆と戦争の恐ろしさを感じました。やはり、戦争は二度としてはいけないことだと思い、山岡さんから聞いたこと、資料館で見たこと、学んだことを語り継いでいきたいと思いました。

これから、毎年暑いこの夏の日、8月6日は私にとって平和を考える忘れることのできない日となり続けることでしょう。

報告

「白寿荘」よりお礼状

Vol.11 で募集した白寿荘ボランティア[10月26日(土)]に行われたチャリティーバザーのお手伝いに、本校より多数の生徒が参加しました。そのことに対して白寿荘より丁寧な感謝のお手紙をいただきました。

「赤い羽根」募金活動のお知らせ

生徒会の主催により、来週中[11/18～22]に「赤い羽根」募金を行います。
皆さんの協力をお願いします。